



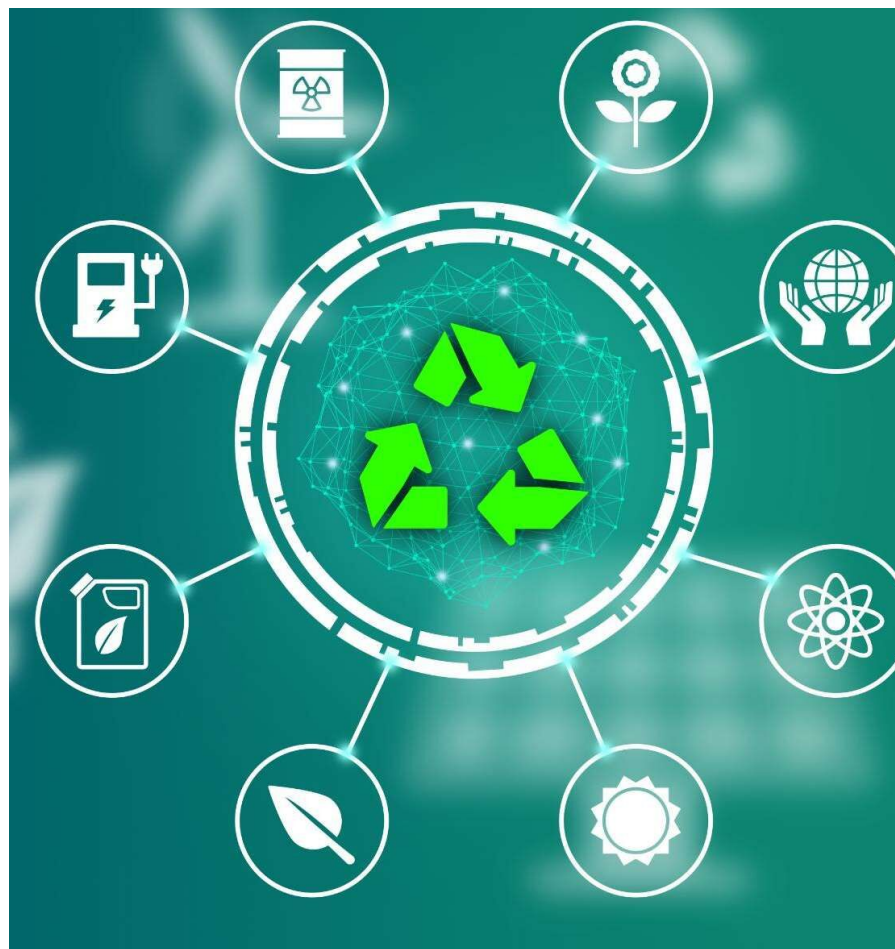
Bloom Your Future
Katsushika

全国みどりと花のフェアかつしか

サステナビリティ戦略 実施レポート



サステナビリティ戦略のターゲット



(1) 資源循環型運営の推進

資源の有効活用とリサイクルを促進し、廃棄物削減に寄与する取組を進める。

(2) 脱炭素・省エネルギー運営

省エネルギー技術と再生可能エネルギーを活用し、クリーンな運営体制を構築する。

(3) 環境に配慮した調達

環境負荷の低い資材等を優先的に調達し、持続可能な運営につなげる。

(4) 次世代への環境教育

子ども・学生・来場者に環境教育の機会を提供し、意識向上を目指す。

① ごみ分別ステーションの設置

対象ターゲット

(1) 資源循環

(4) 環境教育



実施内容

会場内に案内サイン付きのごみステーションを設置し、来場者のごみ分別を促しました。

実績

分別回収量
9,570kg

資源回収量
3,950kg

資源回収率
約41%

回収したごみの内訳

		実績量	予測量
ごみ	燃やさないごみ	4,360kg	6,090kg
ごみ	燃やすごみ	1,260kg	967kg
資源	ビン・缶	650kg	460kg
資源	ペットボトル	560kg	812kg
資源	チラシ・段ボール等	2,740kg	4,548kg

効果

適切な分別により、リサイクル率の向上と廃棄物削減につなげました。
また、来場者が直接分別を行うことにより、来場者の環境意識向上を図りました。

② 生ごみのリサイクル化

対象ターゲット

(1) 資源循環

(4) 環境教育



実施内容

飲食で発生した生ごみを分別回収し、資源として再活用しました。

実績

生ごみ回収・飼料化量
50kg

- ・実施会場 全会場
- ・期間中に生ごみを合計50kg回収し、すべて養鶏・養豚の飼料となった。

効果

焼却処理を行わず飼料化することで、食品ロスの削減と資源循環への理解促進につなげました。

③ リユース食器の導入

対象ターゲット

(1) 資源循環

(4) 環境教育



実施内容

一部の飲食出展者のご協力のもと、使い捨て容器だけでなくリユース食器を使用しました。

実績

お皿
153枚

スプーン
141本

合計
294個

- ・実施会場 葛飾にいじゅくみらい公園、曳舟川親水公園広場ゾーン
- ・カレーを提供するキッチンカー出店者2店舗、計3日間の協力
- ・お皿153枚、スプーン141本、合計294個のリユース食器を使用

効果

リユース食器を使用することで、使い捨て容器の使用量を削減するとともに、購入者に体験してもらいながら資源循環を伝える機会になりました。

④ フードドライブの実施

対象ターゲット

(1) 資源循環



実施内容

メイン会場にフードドライブブースを設置し、家庭で余っている未利用の食品を受け付けました。

実績

食品回収量
13.5kg

- ・実施会場 葛飾にいじゅくみらい公園
- ・6月6日・7日の2日間で、食品13.5kgを回収
- ・個包装のお菓子、乾麺、缶詰等を回収
- ・回収した食品を、葛飾区リサイクル清掃課から葛飾区社会福祉協議会を通じて、区内の子ども食堂等へ提供

効果

食品ロスを削減すると共に、必要とする方々への支援につなげました。

⑤ マイボトル・エコバッグ持参の呼びかけ

対象ターゲット

(1) 資源循環

(4) 環境教育



実施内容

給水機を設置し、マイボトル利用を促進しました。また、エコバッグもイベントの特典として配布しました。

実績

給水量
2,687L

紙コップ相当量
約1.3万個

エコバッグ配布数
495枚

- ・実施会場 全会場
- ・給水量2,687L、エコバッグ配布数495枚

効果

使い捨てコップの使用を抑制するとともに、利用者の環境配慮行動の促進を図りました。

⑥ フェアで使用した花の配付

対象ターゲット

(1) 資源循環

(4) 環境教育



実施内容

会場で使用した花苗等を、来場者や区内学校・団体等に配付しました。

実績

花苗配付率
46.4%

掘取フェア参加人数
2,636人

- ・実施会場 全会場
- ・会場を彩った花のうち、合計で43,585鉢の花苗を配付
- ・葛飾にいじゅくみらい公園及び曳舟川親水公園広場ゾーンでは、「掘り取りフェア」と称し、参加者により会場内に植えられている花の掘り取りを実施
- ・ハンギングバスケットやプランターは区内学校や団体等に提供
- ・事業者の協力により、会場内の花を紙へ再資源化

効果

会場を彩った花を無駄にせず、来場者や協働相手である学校・団体に配付することで、ごみとなる花を減らすとともに、参加者の緑化活動や環境意識の向上につなげました。

⑦ 環境に配慮した燃料の活用

対象ターゲット

(2) 脱炭素・省エネ



実施内容

協賛企業の提供により、水素自動車による給電を活用しました。
また、一部の発電機にはバイオディーゼル燃料を使用しました。

実績

水素自動車による給電
70kwh

バイオディーゼル燃料による給電
3,328kwh

排出CO2換算量
約1.4 t (※)

- ・実施会場 葛飾にいじゅくみらい公園、曳舟川親水公園広場ゾーン
- ・水素自動車が、一部出展者・給水機・ステージ音響へ給電（13日間稼働）
- ・バイオディーゼル燃料により、スポットクーラー・給水機へ給電（26日間稼働）
- ・水素自動車は給電対象となる一部の出展者の電力需要が比較的小さく、また供給期間もバイオディーゼル燃料発電機と比較して短いこと、またバイオディーゼル燃料発電機では、消費電力の大きいスポットクーラーを開催期間を通じて給電したため、発電量が大きくなった。

(※) 東京電力CO2基礎排出係数 約0.421kg-CO₂/kWh

効果

脱炭素型のエネルギー利用を示し、環境に配慮したエネルギー利用の普及啓発につなげました。

⑧ シェアサイクルの活用

対象ターゲット

(2) 脱炭素・省エネ

(3) 環境配慮調達



実施内容

各会場付近にシェアサイクル場を設置し、区内周遊を促しました。

実績

延べ利用者数
1,642人

利用回数
2,815回

- ・実施会場 全会場
- ・延べ利用者数1,642人 利用回数2,815回

効果

環境負荷がかからない移動手段を提供し、電車やバス等の公共交通機関との連携によりCO2削減に寄与しました。

⑨ 本来廃棄される端材を活用したスタッフユニフォーム

対象ターゲット

(3) 環境配慮調達



実施内容

表生地にポリエステル原料・製品の製造過程で出る端材を再生原料として約38%使用したスタッフユニフォームを導入しました。

実績

端材使用率
約38%

スタッフ着用数
200人

- ・実施会場 全会場
- ・運営スタッフ200人が着用
- ・スタッフウェアの背面には「繊維to繊維」を大きく記載し、再生素材を活用していることを、来場者及び出店者にPR

効果

本来廃棄される端材を有効活用（繊維to繊維）し、資源の有効活用と廃棄物抑制につなげるとともに、環境に配慮した素材の活用について広く周知を図りました。

今後、環境緑化フェアなどの区イベントで着用する予定です。

⑩ 区民との花壇づくりの実施

対象ターゲット

(4) 環境教育



実施内容

フェア開催前に区内学校・団体等と協働し、花壇への植え付けや寄せ植えを実施しました。また、開催期間中も来場者とハンギングバスケットの寄せ植えを行いました。

実績

参加人数
約1,150人

参加学校・団体数
20校・12団体

・実施会場

葛飾にいじゅくみらい公園、曳舟川親水公園広場ゾーン、
新小岩駅北口駅前広場、金町駅北口前広場ほか

・たねダンゴ®づくり約130人、フラワーメリーゴーランドへの植付約650人、
花植え等に約370人が参加

効果

地域住民が花や緑に触れる機会を創出し、緑化活動への理解と地域環境への愛着形成につなげました。

サステナビリティ戦略の成果と今後



成果

- ・取組を通じて、イベント運営における環境負荷の低減につなげることができた。
- ・区民や学生、来場者が直接体験・参加する取組を実施したことで、環境に配慮された行動を実践する機会を創出し、環境意識の向上にもつなげた。
- ・学校、地域団体、企業等との連携を通じて、サステナビリティの推進に向けた協働の輪を広げることができた。

今後

- ・本フェアで得られた知見やノウハウは、今後の区主催イベントや地域活動において活用可能なものであるため、効果的で実現性の高い取組を継承しながら、区民・団体・企業との連携をさらに深め、持続可能な地域社会の実現につなげていく。